

介護の現場で、臨床宗教師と呼ばれる宗教者が活動を始めている。宗派の違いを超えて、苦しみや悩みを抱える人に寄り添い、心のケアをする。布教や伝道はしない。東日本大震災を機に養成が始まり、ケアの対象を当初の被災者から終末期患者、要介護者へと広げている。

「こんにちは」

「いきなり臨床宗教師といっても入所者は受け入れられない」として、各部屋の「み集まり」から始めた。その中で入所者との関わり合いが、

「待つたのよ」
仙台市内の特別養護老人ホーム「泉陵虹の苑」には、尼僧の天野和公さん（37）が今年1月から毎週、ボランティヤの臨床宗教師として通う。

1日2時間、施設内を巡回して入所者らに声をかけ、話に耳を傾ける。業務に追われる介護スタッフは入所者らと話す時間がなかなか取れない。入所者らは、親身になって話を聞いている。天野さんの訪問を心待ちにしている。

80代の女性はある東日本大震災の復興住宅から4月に施設に移ってきた。作務衣（さむえ）姿の天野さんを見る。たまに不満をぶつけてくる。「うんうん」。天野さんは女性に気が済むまで話を聞く。

「私は介護がてなさいの、で、そこについて見るとか、大事」と天野さんは言う。入所者の中には話で済まない人もいる。「その時は、にっこり笑って手を握るんです」

天野さんは夫で住職の雅亮さん（47）とともに特定宗派に所属しない寺院「みんなの寺」を市内に運営する。東日本大震災後の2012年4月に東北大に設けられた臨床宗教師の養成講座を14年、修了。泉陵虹の苑で施設実習したところ、

「継続」してきてほしい」と

入所者と家族のように話す柱本博さん（大阪府深木市）（常清の里）



臨床宗教師は心のケアをする専門家としての宗教者。養成講座を修了した人を大学が認定する。2012年4月に東北大大学院が講座を設け、126人が修了した。14年度には龍谷大大学院、鶴見大が講座を開始。15年度は高野山大学大学院が開き、16年度は種智院大学、武蔵野大学、講座を終え認定上智大学大学院が始める予定だ。来年2月には「日本臨床宗教師会」を旗揚げする計画で、臨床宗教師の水準向上を目指す。

「介護の現場では、臨床宗教師を生活相談員の業務を補うために採用する例が目立つ。専門スタッフとして補助的に雇用するのは浸透していない。臨床宗教師の柱本博さんは「家族のように入所者をケアするには、週2〜3日は通えるのが理想」と話す。小谷主任研究員は「臨床宗教師が定着していくには、常勤で働ける体制を整えることが不可欠と指摘する。海外で「チャプレン」「ビハー

臨床宗教師、介護の現場へ

宗派超え悩みに寄り添う

は細く長く続けたい」

触れ合い法話会

「12月8日は成道会（じようどうえ）のお釈迦様が悟りを開かれた日です」

大阪府茨木市の特別養護老人ホーム「常清の里」で週一回ある法話会を担当するのは、浄土真宗本願寺派の「桃源山 明覚寺」の副住職、柱本博さん（27）。

同施設で生活相談員（非常勤職員）を務める臨床宗教師だ。

法話会には入所者やショートステイ、デイサービスの利用者のうち、毎回30

40人が参加する。入居者には他宗派の仏教徒やキリスト教の信者もいる。参加は任意だが、柱本さんの触れ合いを求めて法話会に足を運ぶ。

柱本さんは龍谷大学大学院が養成した臨床宗教師の1期生。4月から週1日、同施設で恒聴活動や法話をしている。副住職を務める京都市・祇園でバーランダーを務める異色の僧侶だ。

寺の長男として生まれ、東日本大震災で宗教者が被災地に入るのを見て、「宗教者が何ができるのか」と疑問を抱いた。養成講座を

受講する中で「宗教者にやれるところがある」と介護・福祉施設に飛び込んだ。施設では、認知症などで心を閉ざした高齢者が奥底に秘めるうさを、恒聴活動で和らげるのが役目だ。

居てあげる大事
時々深刻な話になる。90代の住人は「主人が亡くなり、自分だけが生き残っている。早く死にたい」と泣いて。夫の命日だった。ところが、明日に会うとケロッとして、明るく話した。これは忘れていた。「臨床宗教師は、必要なきときにそばに居ることが大事。いしよにソファに並んでテレビを見ているだけでもいいんです」と柱本さん。

臨床宗教師は宗派の違いを問わないところに存在意義がある。柱本さんは言う。宗派を超えた人脈を持つていられるのが強み。「求められれば、浄土真宗でも東本願寺系の僧侶や、キリスト教の牧師を紹介できる」養成講座を終えて臨床宗教師になった宗教者は、終末期医療の現場や介護の現場で活動する。しかし、死が目前に迫っている終末期医療の現場と介護の現場では、果たすべき役割が違う。柱本さんは言う。「介護現場では、5〜10年は施設に居る人たちに寄り添って。生死の問題だけでなく、昨日こんなことがあった、来週、こんなことがあった」と話した。家族のような存在になって、入所者たちの話を聞くことが大切という。柱本さんは「家に孫が遊びに来た感じで接することができればいい」と話す。（大橋正也）